アクセス

兵庫県立
あわじ石の寝屋緑地周辺図

利用交通機関

●自家用車の場合
神戸淡路鳴門自動車道「淡路IC」出口から約5分（無料駐車場有）

●高速バスの場合
JR・神姫バス「淡路IC」到着後 徒歩約30分

●船の場合
淡路ジェノバライン【岩屋】到着後 徒歩約40分

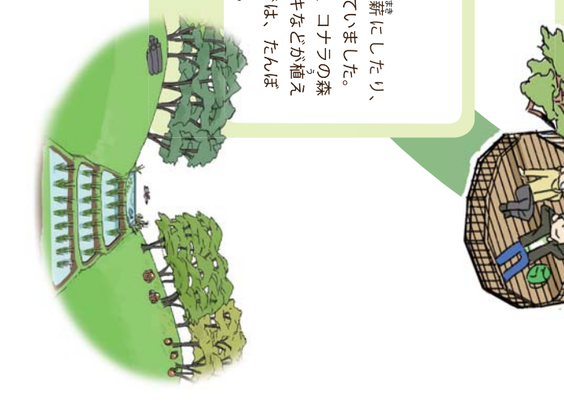
問い合わせ先

（公財）兵庫県園芸・公園協会
あわじ石の寝屋緑地管理事務所
（兵庫県立淡路島公園内）
〒656-2301
兵庫県淡路市楠本2425番2号
TEL：0799-72-5401
FAX：0799-72-5402
HP：http://www.hyogo-park.or.jp/fishinoneya/
◆駐車場：一般40台、身障者2台、大型3台
（駐車料無料）

HPのQRコード

遊びや学びの森の時代（現在）

淡路島の里山を残し、四季折々の自然を楽しみながら、ハイキングや生き物の観察、すばらしい眺望を楽しめる場所になりました。



里山の時代（昭和30年頃まで）

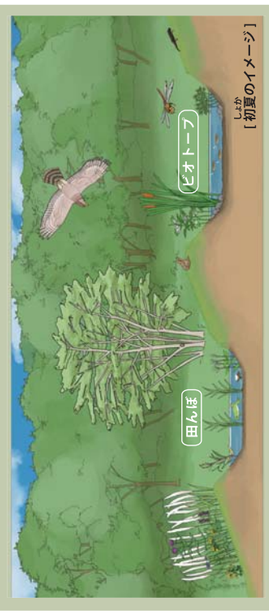
人々が木を切って薪にしたり、クリを植えて実を採っていました。

ウバメガシやクヌギ、コナラの森に、クリや竹、クスノキなどが植えられていました。谷では、たんぼもつくられていました。

いろんな生き物を発見してみよう！

「いきものたんぼ」

自然豊かな、あわじ石の寝屋緑地では、様々な生き物を発見することができます。「いきものたんぼ」には、かつての棚田を利用した田んぼとビオトープがあり、山から流れてくる小川の水を引き込んで、生き物のために1年を通して水を張った状態にしています。よく見てみると、いろんな生き物に出会えるかもしれません。



［初夏のイメージ］

監修：兵庫県立大学大学院　緑環境景観マネジメント研究科／兵庫県立淡路景観園芸学校　澤田佳宏

制作協力：兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科／兵庫県立淡路景観園芸学校

〒656-1726 兵庫県淡路市野島常盤954-2
HP: http://www.awaji.ac.jp/

キャンパスは兵庫県立あわじ花さじきの近くにあります。
園内のアルファガーデンやカフェテリア「風の詩（うた）」は一般公開しておりますので、ご自由にご見学ください。

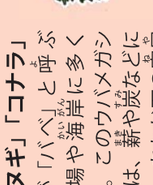
里山林のいろんな樹木！

「ウバメガシ」「クヌギ」「コナラ」

淡路島の人々が「バベ」と呼ぶウバメガシは、岩場や海岸に多くみられる常緑樹です。このウバメガシや、クヌギ、コナラは、薪や炭などに利用されていました。あわじ石の寝屋緑地には、ウバメガシがトンネルのように茂った「ウバメガシのトンネル」が見られます。

「アカマツ林」

あわじ石の寝屋緑地には、アカマツが多く残っています。かつては、もっとアカマツが多く見られ、マツタケも採れたそうです。「空中展望台」に登ると、アカマツがよく見えます。



「クスノキ」「タケ」「クリ」

かつて、人里に近いこの山には、クスノキ、タケ、クリなどが植えられ、樟脳の原料や、タケノコ、竹林、クリの実などを採っていました。昔の山道であった園路を歩いていると、「クスノキ林」や「竹とクリの林」が見られます。

樟脳：
クスノキの根や枝を水蒸気蒸留して得る無色透明の結晶。衣服の防虫剤として用いられる。

石の寝屋の伝説！

「男狭磯の墓の伝承」

昔、允恭天皇が、岩屋の海底にある大きい鮑の貝の中に入っている白玉（真珠）を、島神（伊弉諾尊）に祀ろうとしました。しかし、岩屋の海は潮流が速いうえ、海底までも深く、多くの海人は息が続かず、海底までたどり着くことができませんでした。そこで、もぐりが得意な長邑の男狭磯という男が呼ばれ、見事、海底までたどり着き鮑を採ってきましたが、海上に上がるとすぐに死んでしまいました。その男狭磯を哀れに思った允恭天皇は、岩屋の海が見える西岡山の上に、立派な墓をつくりました。このため、地元の人は、石の寝屋古墳を男狭磯の墓とも呼んでいます。

海に潜る男狭磯（絵本より）

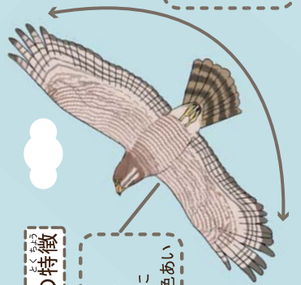
絵本

出典：淡路市立石屋小学校

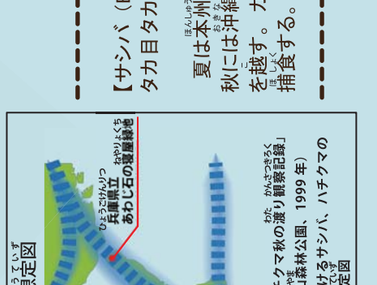
サシバ、ハチクマの渡りを見よう！

「見上げる展望台」

尾根から張り出して設けた「見上げる展望台」からは、サシバ、ハチクマ等の渡りを観察することができます。



渡りのルート想定図



参考：「サシバ、ハチクマ秋の渡り観察記録」（兵庫県立南山森林公園、1999年）
近畿地方における主なサシバ、ハチクマの渡りルート想定図

【サシバ（Butastur indicus）】タカ目タカ科サシバ属

夏は本州～九州で繁殖し、秋には沖縄・南西諸島で冬を越す。カエルやヘビなどを捕食する。

兵庫県立 あわじ石の寝屋緑地

あわじ石の寝屋緑地は、明石海峡を望む淡路島の北の端にあり、明石海峡大橋周辺の自然豊かな緑を守るために開園しました。

ここは、自然と歴史と文化のおもしろさをみんなで見つけるフィールドです。

ウバメガシやコナラの林、小さなため池、泥深い田んぼなど、様々な環境がここに集まっています。これらは、人々が自然と深くかかわりあいながら暮らしてきた「淡路島の里山」そのものです。

また、海人のお墓だといわれる「石の寝屋古墳群」があり、岩屋の海に真珠を採りに潜った海人の男狭磯の伝説が、今に言い伝えられています。

さあ、淡路島の北のはしっこ、明石海峡を間近に望むこの里山で、昨日まで知らなかった何かを発見しよう！

あわじ石の寝屋緑地のこれまで

石の寝屋古墳群がつくられた時代（6世紀後半）

石の寝屋古墳群は、海を生業としていたと考えられる集団がつくった古墳に多く見られる埴輪の古墳です。

その頃の山の尾根などは、アカマツを中心とした森だったようです。